

暁鐘の音

59



小中学生の会話のなかで「別に!」
というのが、ひとつの流行?になっ
ているらしい。もっともこの言葉
は、親や先生といった、主に彼等に
とって仲間以外の人に対して使われ
るようで、仲間同士ではあまり使わ
れないようである。

「これどう思う?」
「べつに」
「何か欲しいものは?」
「べつに」
「理由は何か?」
「べつに」



これでは全く会話が続かない。とこ
ろで「べつに」には、幾つかの意味
がある。ある場合に於ては「考える
のが面倒くさい」「煩わしい」とい
う意味で使われるが、大人に対する
拒否の意味で使われることもある。
つまり「べつに」どちらでも構わな
い。「べつに」言うことではない。「べ
つに」何とも思っていない」という意
味のほかに、「べつに・・・(あなた
に)言っても仕方がない」という意
味で使われているのであるが、実は
この問題はこれだけでは済まない。

そういう評価がなされてきた。その
ために、大の大人であつても自分の
意見を述べない。

町角でマイクを向けられて、「この
件についてどう思いますか?」との
質問に対して、「・・・ということ
じゃないですか」と答える。まるで
他人事で、これでは「自分の意見」
にならない。少なくともこの「表
現」では、自分の意見を言ったこと
にはならない。しかもその人の言っ
たことは、今日の新聞の見出しや、
前日のテレビのニュース番組で展開
されていた論旨そのままであつたり
する。ニュースのヘッドラインをそ
のまま受け売りしただけで、自分で
は考えてはいないのである。

名前は忘れたが、人が「思考」する
には、少なくとも完全な一つの言葉
が必要であると、誰かが言ってい
た。つまり自分の「思い」を表現す
るために、十分な言葉が欠かせな
いのである。言葉には少なくとも二
つの役割がある。「伝達的手段」と
「考える手段」である。伝達的手段
としての言葉についてはここでは触
れないとして、人は「言葉」がなけ
れば考えることはできない。考える

と云うことは言葉を組み立てること
でもある。そのためには「思考」に
耐えられる言葉をもっていなければ
ならない。

感じることを考えることは同じで
はない。したがって曖昧な言葉で
は、何かを「感じる」ことはでき
ず、そのことを的確に表現したり、
「思考」することはできない。

言葉は「概念」でもある。モノや実
体を表わす概念である。人は定義さ
れた概念を持っていないことによつて
モノや実体を「認識」できる。微妙
な状態を表現できる言葉を持ってい
ることで、その微妙な状態を認識で
きるのである。そのような言葉を持
たなければ、単に「いつもと違う」
ことは感じて、それを正確に表現
することはできない。

「チョー嬉しい」「チョー悲しい」
「チョー眠い」「チョー辛い」。な
んでも頭に「チョー」を付ける言
いがある。最近では缶コーヒのコ
マシヤルにも使われている。そこ
では「チョー」の付かない「嬉しい
状態」は存在しない。「嬉しい」と
「飛び上がるほど嬉しい」の間は存
在しない。もちろんただの「嬉し
い」に満たない状態も存在しない。
表現としては「嬉しくない」か
「チョー嬉しい」かのどちらかしか
ない。言い替えば、今感じている
「嬉しさ」をどう表現しようかなど
と考える必要はなく、「チョー」を
冠せればよいのである。もしかして
彼等に「二〇%チョー(超)」と
言つたときの「チョー」の意味が分
かるだろうか。

う。だがこれでは考える手段として
は、ほとんど役に立たない。
自分に思考に耐えられる言葉をもつ
ているかどうかは、考えるところを
文字にして見れば分かる。単に伝達
するだけの言葉しか持たないと、文
字にはならないし、よしんば文字に
したとしても文章にはならない。

「べつに」が、単に「面倒くさい」
というだけならよいが、もし、考え
るに耐えるような言葉を持たないこ

今月の一言



「なぜメモが大事か」というと、メモが
癖になると、「感じることも癖に
なるからだ」

野村克也「ヤクルト監督

私はいつもポケット
にメモ帳を入れてい
る。
駅で電車を待つてい
るときや、電車にゆ
られているときに、ふっとこんな
ことを思いつく。その時、すぐにメ
モ帳を取り出して、さつさとメモを
とる。交差点で信号待ちしている
ときも、ちよつと端によつてメモをと
る。

Bさんに打つメールの内容、明日C
さんに注意すること、このSDCだ
よりの原稿のネタや、次回の講演のネ
タ、ソフトウェアの設計上のピン
ト。そのほか世相の表情なども
この一冊に書き込む。

今から二年ほど前に、「超」整理
法」という本がベストセラーになつ
た。著者にちよつと興味があつたの
で買って読んでみたが、その中でこ
のメモの取り方を知った。覚えてお
かなければならないこと、ちよつと
タメになりそうなこと、気になつた

とに起因しているのなら、そしてそ
のために、うまく考えをまとめられ
ないが故に「べつに」という言葉を
使っているのなら、この国の将来は
危うい限りである。小さいうちから
自国語で自分の考えや思いを表現す
ることの教育を怠つてきたツケか。
ただ忘れてならないことは、子供た
ちの行動の背景には、いつの時代も
それをやっている「大人」がいる。

こうしてメモを取るようになって、
確かに「感じる」ことが習慣になつ
ているようである。というより「感
じよう」としてると言つたほうが
正しいかも知れない。

反対側の信号が既に青になつてい
るのに突っ込んでくる車が四年ほど前
から増えてきたこと。電車の床に
しやがみ込む若い人が増えているこ
と。歩道ですれ違つたときに除けな
い人が多くなつたこと。「職業観」と
いうようなものが変化しているこ
と。「感じよう」とすればいろんな
ことが見えてくる。

もし、このメモの習慣を手に入れて
いなければ、今ごろは「SDCだよ
り」の原稿に追われているかも知れ
ない。いや、それよりも仕事になつ
ていないだろう。